

有限会社 キーポイントホーム



補助金活用し 長期優良

ユーザー訪問

中村 様邸

DATA

南津軽郡藤崎町 2019年5月竣工

- 延べ床面積 / 37.5坪 (124.21㎡)
- 使用青森県産材 / 〈構造材〉ヒバ(土台)、スギ(柱)、カラマツ(梁) 〈内装材〉スギ無垢材(床)、スギ集成材(階段格子)、タモ集成材(階段)。

辿り着いた 県産材の家

中村様の新築計画は土地探しから始まった。小学校が目の前で駅にも近い条件に合った土地を取得するまで1年半。並行して展示場や見学会に足を運んで工務店探しも進めていた。ハウスメーカーや地元工務店など20社のうちから2社に絞り込み、プラン作成、見積もりまで進めたが、契約には至らなかった。何か足りなかった。年明けに生まれる予定のお子さんを新しい家で迎えたかったので、これが最後のつもりでネットで検索したのが(有)キーポイントホーム。展示場の写真に目が惹かれた。柔らかく温かそうな床や壁。足りなかったものが分かった。「木」だったのだ。

高断熱・高气密など住宅性能に関心が高かったご主人。一方、奥様の関心事は、子供の肌に優しい無垢の床などのソフト面。キーポイントホームの家づくりがハードとソフトの両方を満足させたわけだが、「決め手」はそればかりではなかった。奥様が、さりげなくこう付け加えた——「阿保さんの対応の早いところが良かったです」と。展示場で初めて会った阿保勝之社長とのやりとりで奥様はそう感じたという。「質問すればす

ぐに答えが返ってきて、しかも分かりやすく、それが好印象として残りました」。その後、打ち合わせに入っても、「いくつか面を持つてくる、見積もりはいつ……」といった具合に常に先導してこちらを待たせない対応は第一印象のままでした」と奥様。お客様は建物を見学に行っても応対する相手の「人」を見ているのだという原点を奥様の言葉が示していた。

——20社とはずいぶん見学されましたね。



2階の洋室。天井の一部をカットして梁を見せたところがセンス

ご主人の話 建物を見れば自分の好みに合うかどうか分かるでしょうし、とにかく数を多く見ようと結構回りました。みんな良く見えるから、なかなか絞り込めなくてね。でも、間取りとか、予算とかの話を進めないと子供の誕生に間に合いません。

奥様の話 翌年(2019年)の2月に2人目の子供が生まれるので、それまでに家を建てる計画だったんです。

ご主人の話 最終的に2社に

絞り込んで、見積もりを出してもらいました。2社とも予算から極端にオーバーしていたわけではないし、細部の調整はあるにしても、どちらかに決めればいいだけでしたけど、振り返れば、決めきれない何かがあったんですね。ネットでキーポイントホームのホームページを見てみて、それが「木」だと分かったんですよ。床も壁も天井も「木」が張られていて、惹き込まれました。20社の中にはこの「木」がなかったんです。「白い壁」ば



ブナコの照明がキッチンの空間にマッチ



スギの木目と白壁の調和が美しいリビング



量の黒がシックな雰囲気を醸し出す和室

かりが印象に残っていて、つまりは「木を見せる造り」ではなかったということですね。

泉野にあるという展示場（『あおもり産・木の家』を訪ねました。それが昨年（2018年）の6月です。実物のほうがホームページの写真より迫力がありました。床も木、壁も木、梁が見えていて、天井にも木が張ってあります。こういう家に住みたかったです。

太陽光発電で「ZEH」ランニングコスト低減

阿保社長の話 ご主人とお会いして、よく勉強されている方だと思いました。室内の造りのことだけでなく、ハード面の住宅性能や国の補助金についても突っ込んだ質問を受けました。二酸化炭素の排出削減を図るため高性能な住宅の建築を促進させようと国が実施してい

る補助金制度があるのです。省エネルギー住宅にするには工事費がかかるので、その一部を補助しようというものです。ご主人の要望に対してぴったりの補助金が、「地域の木材」を使った「長期優良住宅」を対象とする「国土交通省の地域型住宅グリーン化事業」です。当社の家づくりも、常設展示場の「あおもり産・木の家」の名称どおりにスギやカラマツなど青森県産材の使用を前面に打ち出した高断熱・高气密住宅で、もともとその規準に当てはまりません。

中村様邸は、さらに太陽光発電も導入したNearly ZEH（ニアリー・ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（注））です。耐久性や断熱・気密性が高いことから、少しのエネルギーで生活できます。その結果、ランニングコストが低く抑えられ、末永く健康で快適に暮らせる家なのです。

——奥様のお気に入りには？

奥様の話 キッチンに朝日が射し込むのがとってもいいです。キッチンの東側に階段があるんですけど、斜めの階段ではなく、途中の踊り場を広くしたスキップフロアになっていて、その壁の窓から陽が真っ直ぐ射し込んでくるんです。スキップフロアは2帖の広さがあるから子供の遊び場にもなるし、手摺りのスギの格子から子供の姿



スキップフロアの壁の窓から朝日が射し込む奥様お気に入りのキッチン

も見えて会話もできませんしね。それと、1階のサニタリーの他にそこにも洗濯物を干せるので重宝しています。

阿保社長の話 見積金額と予

算が合わないのはいつものこと
で、その合わない金額をどうするかが満足する家になるか否かの分かれ道です。中村様は、歩み寄ってくださいました。2



三角屋根の屋根裏を利用したご主人の書斎。36℃を記録した猛暑日もご主人はここでひとときを過ごせたほどに高断熱

階に欲しかった書斎を譲歩してくれました。それにはこちらでも誠意で応えなければなりません。三角屋根の屋根裏を利用して、そこを書斎にする提案をしました。書斎というより隠れ家的なご主人の部屋ですね。当社の断熱工法は「W断熱」で、屋根面の内側と外側の両方に断熱材を施すので、屋根裏でも熱湯みたいに温度が上がるということはありません。

ご主人の話 弘前でこの夏最高の36℃を記録した日も、ここに居ましたよ。そんなに長い時間ではありませんでしたけどね。屋根裏で、しかもエアコンのないところに居られただけでも優秀です。猛暑日に断熱性能が実証されたわけですね。

.....
(注)Nearly ZEH(ニアリー・ネット・ゼロ・エネルギーハウス)：家庭で使用する電力のすべて(100%)を太陽光で発電するのがZEHだが、75%以上を発電し、ランニングコストを低く抑えられる住宅がNearly ZEH。



有限会社 **キーポイントホーム**

弘前市泉野3丁目11-11
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706
<http://www.ki-pointhome.com/>
E-mail : staff@ki-pointhome.com



「あもり産・木の家」常設展示場

建築組パックス 有限会社



リフォームで 夢を実現

古民家リフォーム

二澤平 登 様邸

DATA

八戸市尻内町 2019年5月竣工
 ■延べ床面積/31.62坪(104.36㎡)
 ■使用青森県産材/スギ(腰壁、天井、建具、濡縁)、カラマツ(外壁)など。

老後を 古民家 で暮らす

二澤平様はご夫婦の2人暮らし。ゆくゆく土地・建物は子供に譲る計画で、そのときまで築27年になる既存の家を自分たちの住みたいように直し、「終の棲家」として暮らしたい——それがご要望であった。奥様の好きなテレビ番組『人生の楽園』に出てくる、茅葺屋根で黒光りする板敷きの農家のような古民家。そのイメージに重なる「古民家リフォーム」の新聞広告が目に残った。2017年11月の日曜日の朝だったと今でも記憶に残っているという。すぐ広告主の建築組パックス(有)に電話をかけ、その日の午後にご夫婦で展示場を見学に出かけた。

現在地は水はけの良くない土地だったという。ポンプで水を汲んで排水するようになってから問題は解決したが、一時はどこかに土地を買って平屋でも建てようかという計画もあったそうだ。マンションという選択も。最終的にリフォームすることに落ち着いたのは、住み慣れた土地であり、家であり、近くに親戚はいるし、友だちも多から。新しいところに移転すれば環境に慣れるまでまた一か

ら始めなければならぬし、もう面倒だ。そんなときにタイミングよく下水道が整備された。それがゴーサインになり、リフォームに踏み切った。——居間から窓越しに庭が見え、その向こうに田園が広がっている眺めは以前のままで、古民家風リフォームした室内から見ると、馴染んだ景色もまた新しく映るのだった。

——以前の家はどんなところが不便でしたか。



Before



After



台所と居間をひと間にした段差のないバリアフリーの居間

ご主人の話 家は水回りから傷み出すといわれますけど、わが家もまず浴室がダメになっ
て、ユニットバスに替えました。
それでも蛇口からサビのよう
なものが出てくるし、台所もそ
うなので、水道の配管もやり直
してもらいました。ボイラーも
替えましたし、まとめると結構
な出費でした。水回りだけ直せ
ばいいかというところ、そう
ではなく、段差がけっこう
あるのでつまずくし、
台所と和室が廊下をは
さんで離れているので
冬はそれぞれにストー
ブを点けなければなら
ないから不経済だし、い
ろいろ不具合が出始め
ていたんです。

奥様の話 純和風の家

で、玄関の正面にのびて
いる廊下を挟んで左側
に和室の続き間、右側に
台所という間取りでし
た。建てたあの頃はこう
いう間取りが主流でし



腰壁も引き戸もドアもこげ茶色で統一した落ち着きある玄関ホール回り

たから仕方ありませんけど、台
所で食事をして、そこに和室が
続いているとスロープ1台で済
んだのだけど、離れていました
からね。冬になるたびに改築を
考えましたけど、水回りをリ
フォームしたばかりだし、少し
ずつ直すのは結局高くつくとも
聞いていたので、この際にまと
めてリフォームをしようかと主

Before



After



人と話はしていったんですよ。いづれこの土地と家は二男に譲るつもりです。二男は教師をしていて、今は転勤で八戸から離れているので、戻ってきたときにリフォームする考えもあつたんですけど、いつのことになるか分かりません。「古民家リフォーム」の新聞広告を見たのはそんなときだったんですよ。紙面の下のほうに小さく

載っていたんですよ。いつもはほとんど見ないページなんですけどね、不思議なものです。ご主人の話 「古民家リフォーム」というネーミングに惹かれましたね、きつと。単に「リフォーム」では、床を直したり室内の壁を貼り換えるイメージしか伝わってきませんが、「古民家リフォーム」となると、昔の農家みたいな渋味のある

室内が一発で浮かんできます。そのイメージに引き寄せられて展示場を見にいったんですよ。

段差無いバリアフリー 台所と居間をひと間に

奥様の話 拝見した展示場も

古民家風でしたし、それまで大西さんが手掛けたという古民家リフォームした家の写真もみな素敵でした。リフォームじゃないけど、案内してくれた、完成してまだ1年という新築の板張りのお宅もいかにも木の家の雰囲気があつて気に入りました。大西さんに

わが家を見下見してもらうことにしました。

大西社長の話 自分たちが暮らしたいようにリフォームして老後を過ごしたい——そう考えている人は多いのではないのでしょうか。どうリフォームしたいかというところ、落ち着いた「古民家風」が断然人気があるようです。建て替

えとなればまとまったお金がかかるけど、生活空間だけを直せば新築並みの気分も味わえます。費用も大幅に抑えられます。そう提案しているのが当社の「古民家リフォーム」なんです。既存の家を生かし、ご夫婦2人の老後を送る「終の棲家づくり」を二澤平様にもお薦めしました。

ご主人の話 大西さんが提案してくれた間取りは、左右反転でした。台所と、和室の位置を逆にするのです。和室の続き間

大西社長の話 自分たちが暮らしたいようにリフォームして老後を過ごしたい——そう考えている人は多いのではないのでしょうか。どうリフォームしたいかというところ、落ち着いた「古民家風」が断然人気があるようです。建て替



イメージおりの「古民家風」に仕上がった



居間の大窓の外に見える庭も景色も新しくなったよう

をワンルームの台所と居間にし、台所だった所を寝室に替える。なるほど、そうなれば食事の後にそのままテレビを観ながらゆっくりできるし、ストーブも1台で済むわけです。さすがは一級建築士、うまく考えるものです。実は選択肢の一つとして妻からマンションに移り住むことも提案されたんですけどね、そうなると庭いじりの楽しみがなくなります。リフォームに決めて良かったって庭を見るたびに思いますよ。

奥様の話 段差がないバリアフリーの床というのは楽なものです。実感していますよ。それと、わたしの一番のお気に入り、回遊動線なんです。寝室から洗面所に行けるし、洗面所から台所にも行けるし、台所から居間を通って廊下に出られるし、そこからまた寝室に入れる。その逆もまたぐるりとつながっていて、とっても便利。これだけでもリフォームした甲斐があります。



建築組パックス株式会社

八戸市大字新井田字石動木平1-1
 TEL.0178-25-6020 FAX.0178-25-5542
<http://kenchikugumi.jp>
 E-mail:pacs@kenchikugumi.jp



企業組合 県木住



主役は鋼板製薪ストーブ

ユーザー訪問

伊藤 一夫 様邸

DATA 上北郡野辺地町 2015年3月竣工
 ■延べ床面積/33.00坪(109.31㎡)
 ■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、大黒柱、床)、アカマツ(梁)など。

蒸気機関車の窯のよう

現場に立つ大黒柱に片手を添えた伊藤一夫様の写真が、「青森県産材でエコな家づくり」No.V(2015年発行)に載っている。2014年12月6日の伊藤様邸上棟式で撮影した。ご主人が被っている毛糸の帽子に、その日が大雪だったことが蘇る。大黒柱にするスギの立木を施主がチェーンソーで伐り倒し、外壁に張るスギ板に家族で塗装をして、迎えた上棟式の模様までを「本」で紹介した。次は、竣工して4年余りになる「木の家」での住み心地はどうか……。その取材を、企業組合県木住の佐藤時彦代表を通して申し入れると、「OKだそうです」と、快諾を得た旨の返信がきた。

玄関前の駐車スペースの端に設けられた薪棚が目についた。細く三角に割られた薪がぎっしり積まれてある。庭の奥に転がっている玉切りされた丸太。風除室に置かれたネット袋の中の松ぼっくりは焚き付け用だ。

伊藤様邸の「主役」である薪ストーブは、玄関土間に鎮座していた。岩手県釜石市の(株)石村工業が製造する黒い鋼板製の『クラフトマン』。同じ釜石生まれのご主人が、「器用なストーブじゃないんだけどね、手がかかる分、愛着がわくんですよ」と相棒の肩にでも手を置くようにして笑った。家を建てる大前提が薪ストーブの設置だった、というほどに惚れ込みが深い。

お嬢ちゃんに挨拶したら、「こんにちは」と、しっかりした返事が返ってきた。小学校1年生になったという。むつ市の山林で行われた「大黒柱伐採」の取材で初めて会ったときにはま



薪ストーブの前でくつろぐ新築時の伊藤様ご一家

だ2歳であった。あれから5年。ご主人が、鳴き止んだペットの犬を抱きかかえたままりビングの無垢のスギ床に座った。お嬢ちゃんもパパに寄り添って犬を撫でる。その脇のテーブルの前に奥様も……。主役のクラフトマンのそばが伊藤家ご家族の居場所なのだ。

住み心地はいかがですか？と聞いても、「快適さは言葉では表現しにくいでしょうけど。



玄関前の駐車スペースの端に設けられた薪棚

ご主人の話 住んで4年と3か月ですけど、もうずっと何年も前から暮らしているような気がするんですよ。最初、佐藤さんに、「小屋のような家」にしたいって伝えて、間取りの打ち合わせを進めながら、その時点でもう住んでいるような感じがしていたんです。外壁もリビングの床にしても、板を張った状態が目に見えるように浮かんでいましたからね。住む前から家に馴染んでいたのですね。

——玄関土間にしたのはご主人の要望ですか。

ご主人の話 庭で薪割りした後、長靴のまま家に入れるようにしたい、と佐藤さんにお願いしたら、玄関土間にして、そこに薪ストーブを置こう、となったんです。漁師小屋みたいな中で、薪ストーブを囲んで魚とかスルメを焼いている、あんなイメージですね。好きなんですよ。子供の頃から秘密基地を作って遊んだり、大人になってもキャンプに行つて焚き火をしたりしていたから、その延長ですね。

——さっき、クラフトマンは「器用じゃない」と言われていましたが。

ご主人の話 蒸気機関車の窯みたいで、薪をくべればくべただけゴロゴロといくらでも燃えちゃうし、まめに手をかけて調節してやらないといけないんですよ。そこがまた可愛げがあるんですけどね。設置した時はペレットと薪の兼用焚きだつ



ただ、主力は薪なので、上部のペレットを入れる部分は取り外して今は薪専用で使っています。

無垢材の変化に味わい 浮いてくるスギの木目

— 暖房は薪ストーブだけですか。

ご主人の話 2階も、換気口から熱が取り出せるようになっていて、それで充分暖まります。

— 換気口とは、2階の煙突を囲った腰壁に付いている、スライド式の木製建具のことですね。

ご主人の話 (頷きながら) 1階から真つ直ぐ立ち上がっている煙突を、2階の階段の手摺りの高さに合わせて、腰壁で囲っています。暖房の熱が上に抜けてしまわないように、煙突周りを蓋で塞いでいるから、四角い煙突スペースに熱が溜まるわけです。その熱が、腰壁にはめ込んである木製建具をスライ

ドさせて開けると、自然と出てくるしくみです。換気口ですね。三方に付いています。指を開いて重ねた両手をずらすと、指の間があくでしょ、あんな感じですよ。ヒントは、牛舎でした。私、畜産の仕事をしていて、牛舎の中に入ると、冬場は暖かい空気が上に行くので、天井部分の換気口を開けて熱を逃がしてやるんですよ。それを自宅に応用できないものかと佐藤さんに話したら、これを作ってくれたんですよ。

— 奥様は、住んだご感想はいかがでしょう。

奥様の話 外観に特徴があるついでいいんですけど、訪ねてくる友だちに「木を張った家」と教えると、このあたりには他にないから、すぐに分かるようですよ。それと室内は、玄関土間とリビングとキッチンと、隣の和室もいつも戸を開けてあるから全体が繋がったワンルームみたいで開放感があります。2階も区切っていないから広々と

したフリースペースみたいだし……。洗濯物もストーブの熱ですぐに乾きますしね。

ご主人の話 木の外壁って、住んでみて改めて「自然」だなんて思いました。雨が降って濡れれば色が黒っぽくなって、晴れると乾いてだんだん白っぽくなってくる。サイディングだと雨の日も晴れの日も年がら年中色が同じでしょ。変化がありませんよ。庭にしても花とか葉っぱの色が季節によつて違うけ

ど、草が生えないようにアスファルトとかで固めてしまうと変化がない。スギ板がだんだんと木目が浮いて色が変わつてくるのも経年変化だし、木だつて革製品だつて変わるんですよ。それが自然なんです。

— 朝、ストーブを点けるのはご主人ですか。

ご主人の話 いやいや。早く起きた人が点けるんです。うちの娘も小学校の高学年になつたらやつてもらいますよ。スイツ



熱を取り出せるようスライド式にした、煙突を囲っている腰壁の木製建具



2階ホールの一角に設けた書斎コーナー

チ一つで暖房がつく便利さに慣れてしまえば、困ったときに知恵が働きませんから。自然の中に身を置いて、そこから体で覚えたものがいざというときに役立つんです。

佐藤代表のコメント

伊藤様は「どんな暮らしをしたいか」を明確にし、念入りに打ち合わせをし、家をつくられた方です。ご自分の人となり

知って欲しいと、設計打ち合わせ中に、お酒の席を用意してくださいました。設計する私に、文章や言葉では伝わらない「伊藤さんが目指す暮らし」を伝えるにはお酒を飲みながらの場を設けた方がいい、ということ。「感じ取って。佐藤さん!!」と。おいしい日本酒をずいぶん飲んだ記憶がありますが、伊藤さんの狙い通り、私は大変助かりました。「伊藤さんなら

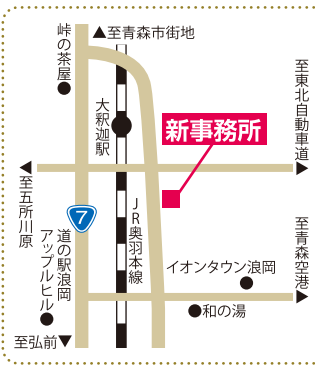
こういう家だ」と考えやすくなりました。


そうして完成した伊藤さんの家。冬の暖かい暮らしのために春から薪づくり。自分で自分の家を暖めるんだというお父さんの責任感。受け身ではなく「暮らしていくんだ」という気合い。本質を見極める伊藤さんと一緒に家をつくることができ、設計通りの暮らしがさりげなく成り立っていること、作り手の我々にとってもこんなうれしいことはありません。

事務所移転のお知らせ

県木住では2020年4月1日に青森市浪岡に事務所を移転します。

●新事務所住所：青森市浪岡 徳才子字福田60の2






青森の木で家をつくる 企業組合

県木住

企業組合 県木住

青森市松原1丁目16-25 (青森県森林組合会館内2F・3F)
 TEL.017-732-5333 FAX.017-732-5777
<http://www.kenmokuju.com> E-mail: info@kenmokuju.com



企業組合 県木住
(青森県森林組合会館内)